



東京赤坂ロータリークラブ

NO. 1198 / 2014. 06. 27

例 会/ANA インターコンチネンタルホテル東京

Tel 03-3505-1111

事務局/〒107-0052 東京都港区赤坂 2-19-8

赤坂 2 丁目アネックス 3F

TeL 03-3505-5976

Fax 03-3505-6004

http://www.akasakarotary.com/

東京赤坂ロータリークラブ週報 Weekly Report

2013～2014 年度クラブテーマ
会長 西澤 民夫

「みんなで参加、心地よいチャレンジを！」
Join Together with Good Challenge!

●本日の例会/ 2014 年 6 月 27 日 第 1307 回

2013-2014 年度 最終夜間例会・打上会

最終夜間例会

「退任のご挨拶」

会 長	西澤 民夫
副会長	橋本 年男
幹 事	田村 昭二

打上会

シンガーソングライター松浦梓氏によるライブ

「退任のご挨拶」

会長 西澤 民夫

あっという間の一年間でした。

この一年間で心がけたのは、肩の力を抜いて、自分の力で出来る範囲で、クラブメンバーの皆さんと一緒に、無理なく本音でロータリー活動に取り組めたらいいなあということでした。

そのためクラブテーマとして「みんなで参加、心地よいチャレンジを！ Join Together with Good Challenge!」という言葉を選びました。例会の点鐘も肩の力を抜いて、手首のスナップを効かせて力いっぱい叩かせていただきました。これによって、参加者の心が一つになるという気持ちを込めました。人によっては鼓膜に障害をきたしたという人もいたかもしれませんが、勘弁して下さい。

ご承知の通りロータリークラブが 1905 年 2 月にシカゴで誕生して既に 109 年、日本では 1920 年 10 月に誕生して 88 年、赤坂ロータリークラブが 1986 年 10 月に誕生して 28 年経ちました。このような伝統あるロータリークラブの会長（たとえ赤坂という小クラブとはいえ）に指名された時は、よし必死に頑張るぞ！と思いました。

しかし、すぐにそれではいけないと考え直しました。会長と言ってもその年度のメンバーの皆さんが奉仕活動をしやすいうように行動するのが、役目である。自分一人で張り切っても、できることは限られている、地域社会の皆さんに役に立つのはメンバーが心を合わせて一つになるのが肝要であると考え直しました。

私は奉仕活動の喜びを知らない人にそれを教えてさしあげるのが、ロータリアンの重要な責務であると確信しています。そのために新たな同志をどしどし迎え入れるのが、赤坂ロータリークラブとしての奉仕活動の力を生む源泉であると確信して、リクルート活動にも勤しみました。任期中に「みなとくキッズフェスタ」を盛会のうちに実施できたこと、また図らずもかつ及ばずながら東京グローバルロータリークラブのスポンサークラブとなったことも忘れられない大イベントでした。

最後になりますが、橋本副会長、田村幹事の好補佐に加えメンバーの皆さん、事務局の益子さんの強力なバックアップがあって、会長らしくなくのびのびと楽しく任期を迎え

させていただきましたことは、いくら感謝しても足りません。皆さん、誠にありがとうございました。

「退任のご挨拶」

副会長 橋本 年男

月日の経つのは早いもので、指名委員会から副会長就任の要請があったのは一昨年の八月でした。その時は、快くお引受けの返事をしたのですが、その後、大変な責任を感じた事が昨日の様に思い起こされます。

さて、西澤年度も本日で無事終了と成りました。その間、副会長として就任挨拶で皆様に決意を申し述べました、「全試合・全イニング」出場だけは果たせたと感じております。

時として会長代行、時として幹事代行を務めさせていただきました。

年度に入っての大仕事はまず「みなとくキッズフェスタ」でしたが、会長・幹事のご努力は基より、クラブ会員が統一ユニフォームで全員参加してこれに臨んだ事でした。当クラブの結束力が成功裡に導き、この結果、昨年に引き続き地区から二年連続「ガバナー賞」を受賞する事で、東京赤坂ロータリークラブの歴史の一ページを飾る事が出来ました。副会長の役割は会長を補佐しつつ、クラブ管理運営を統括し円滑に進めることでありますが、その傘下の三委員会は例会を司りますが、SAAの穂刈リーダー・プログラムの島本リーダー・ソングの河邊リーダーに於かれましては大変なご努力を頂き例会に穴をあける事も無く、楽しく有意義な例会に導いて頂きましたご努力に感謝申し上げます。

また、西澤会長の優れたリーダーシップと田村幹事の力強く素晴らしい行動がマッチし、本年度が大変楽しい年度に繋がったものと思います。西澤会長様・田村幹事様ほんとうにお疲れさまでした。当クラブも会員増強等の課題は山積ですが皆様方の協力を得て石井年度に繋げていければと思っております。最後に事務局の益子さんにはキッズフェスタを含め、数々のご努力を頂き大変感謝してます。

この一年間、皆様方のご協力、誠に有難うございました。

以上

「退任のご挨拶」

幹 事 田村 昭二

本日をもちまして幹事役を退任いたします。本当に時間が過ぎるのは早いもので、あっという間の一年間でした。西澤会長、橋本副会長にはたくさんのご支援をいただき未熟な私を引っ張っていただき、また、役員、理事、委員長、クラブ会員の皆様方にはいろいろご迷惑をお掛けいたしましたことをお詫び申し上げます。特に、事務

局の益子さんには一番ご迷惑をお掛けしました。この様に事務局が忙しいことを入会してから初めて知りました。今年度2750地区のガバナーは日本のロータリー初めての女性ガバナーということで「新しい風」をキーワードにたくさんの新しいことに積極的に挑戦をいたしました。その中でも顕著なことはクラブ拡大で、4クラブがRIで承認され、2クラブが申請中で6クラブ新しくできるという快挙を達成しました。その中で小原ガバナー補佐、吉岡グループ幹事が千代田グループ8クラブを見事に牽引されました。その中でも「新会員研修会」が好評で今後の新会員研修の道筋をつけた内容でした。また、クラブの今年度のテーマであります「みんなで参加、心地よい参加を！」で、いろいろな場面で新会員の皆様方が気楽な気持ちで参加いただき、意義ある活動が出来ました。10月に開催されました「2013みなとくキッズフェスタ」では昨年に引き続きガバナー賞をいただくことが出来ました。橋本副会長のお話ですと地区で一つだけ選ばれる「意義ある業績賞」の次点に選ばれたそうです。それから東京グローバルロータリークラブのスポンサークラブになったこと。これにつきましても、小原さん、岩上さんが地区からクラブ拡大功労賞で表彰されています。このように活動の一部を披露いたしましたが、まだたくさん説明をしていないことがあります。本当に皆様方一年間ご苦勞様でした。有難うございました。



6月20日(金) / 9件 18,00円

累計 1,198,000円

多額の寄付を有難うございました。(敬称略)

西澤民夫/71歳の誕生日を祝っていただきありがとうございます。本日のクラブ協議会よろしく申し上げます。尾関武男/いよいよ西澤年度ラスト前ですネ。藤井さんニコニコご苦勞様。田村昭二/深夜からワールドカップを見ていて寝不足です。残念ながらギリシャとはドロー。今日からコーヒーはコロンビアを飲みましょう。土屋東一/藤井さんニコニコご苦勞様です。石井達/東さんの卓話楽しみにしております。青柳さん、ようこそ。河邊幸夫/藤井さんニコニコお疲れ様です。関陽一/日本代表は残念でした。でもまだ終わったわけではありません。藤井さん、お疲れさまです。浦平典子/お誕生日を祝っていただき、どうもありがとうございます。いくつになっても“おめでとう”と言っていたくのは嬉しいものです。藤井万博/今日もギリシャ戦、残念でしたが、7/1よりギリシャに出張へ行きますのでコミュニケーションは正直とりやすい結果でした。

出席報告： 会員 39 名 / 出席 28 名 欠席 11 名
 ゲスト： 東美沙 (R財団奨学生)
 ビジター： 朝槻真紀子(大手前 RC)、玉村秀樹(東京廣布むらさき RC)、青柳薫子(東京広尾 RC)、丸山中(東京愛宕 RC)
 (計 5 名 順不同・敬称略)

●次回予告/ 2014 年 7 月 4 日 第 1308 例会

2014-2015 年度 初例会

「就任のご挨拶」

会 長 石井 謙次 氏
 副会長 岩上 義明 氏
 幹 事 小林 博茂 氏

●前回報告/2014 年 6 月 20 日 第 1306 回例会

本年度第 6 回・次年度第 1 回クラブ協議会

「本年度各委員会クラブ活動報告・

次年度各委員会クラブ計画」



会長報告：

当クラブがスポンサーを務めるロータリー財団奨学生の東美沙さんよりご挨拶です。東さんは、移民法/難民法を学び、難民制度の重要性を広め、難民が広く受け入れられるようにしたいという思いから、緒方貞子さんの出身校でもあるジョージタウン大学大学院 (ワシントンDC) で勉学することになりました。ワシントンでのホストクラブ (Capitol Hills) およびカウンセラー (Ms. Debbie Harrison) が決まりました。



R財団委員会委員
 玉村秀樹委員

慶事披露：

誕生日祝 / 西澤 民夫 君 (6月17日)
 浦平 典子 君 (6月29日)



陸前高田ロータリークラブ 創立50周年記念式典に参加いたしました。

東京赤坂ロータリークラブでは2011年3月11日に発生した東日本大震災で甚大な被害を受けました。R I 第 2750 地区陸前高田ロータリークラブに対し、数々の復興支援活動を行って来ました。

当クラブを含め全国の 36 ロータリークラブが復興支援活動に参加して来ましたが、この度、陸前高田RC創立50周年記念式典を陸前高田キャピタルホテルで2014年6月21日(土)に開催されました。式典は当クラブから西澤民夫会長、橋本年男副会長、石井達国際奉仕委員長の3名が出席いたしました。本来、陸前高田ロータリークラブの50周年記念行事は2011年に行われる予定でしたが、震災での被害により実現できずにいました。

しかし、クラブとしての会員も増加し、例会場も確立した事により、ロータリー活動が活性化する事が出来、さらに陸前高田市の復興が加速して来た事から、この日に記念式典を執り行う事が出来ました。東京赤坂ロータリークラブ一同は心から、お祝い申し上げる次第であります。

式典参加には、まず地域から陸前高田市の戸羽市長、衆議院議員の黄川田議員等9名、R I 第 2520 地区関係として伊藤パストガバナー等11名、各支援クラブから東京赤坂RC他36クラブ122名、主催の陸前高田RCは佐々木会長、千田実行委員長始め19名、合計141名、他に当式典開催ボランティアとして多数の方々が参加され盛大に執り行われました。

式典で陸前高田RC佐々木会長から今迄数々の支援に対する感謝と今なお、その支援が続いている事に対する重ねての謝意が表じられました。

式典の実施を取り仕切った千田実行委員長からは50周年記念事業として当クラブも支援活動として参加した「高田松原公園作り」や「被災児童・青少年支援」への情熱を今後も注ぎたい旨の報告があり、当クラブが係った事が活かされているお話を伺うにつけ胸が熱く成る思いがいたしました。陸前高田市の戸羽市長からはロータリークラブの皆様から支援活動を継続的に頂いている事に敬意を払い、また今後は支援に対して恩返しをしたいとの話がありました。記念講演では静岡大学の牛山教授から「地域を知り、防災を考える」をテーマとしてのお話があり、大変参考と成りました。

その後、感謝祭として岩手の氷上太鼓の歓迎演奏に引き続き懇親会が行われ、陸前高田RC他の皆様方と親しく、お祝いを交わしましてお開きと成りました。陸前高田市の復興の槌音も高らかに成っている事を目の当たりにいたしました。私達は今後も復興支援と共に「奉仕の理想」を貫く覚悟を強く持つ事を感じつつ帰路につきました。

(副会長 橋本年男 記)



2014年6月13日卓話「ロータリーの奉仕活動」 大日方真 会員

R I 戦略計画では奉仕活動とそのプログラムについて、次のように述べられております。

「ロータリーの奉仕活動とプログラムは、さらなる世界理解と平和をもたらすものであると、私達は信じている。奉仕は私たちの使命の主要な要素である。私たちは、個々のクラブの計画と行動を通じて奉仕する者に無類の喜びを与え、組織全体に奉仕の文化を創造しているのである。」

また、個人による奉仕活動は個々のニーズに焦点を当てるものであるが、協力して行う奉仕活動は人類に奉仕するものであると私たちは信じている。力を合わせて活動すれば、その力は無限となり、多くのリソースをもたらし私たちの人生を豊かにし、視野を広げるものとなる。」

当クラブでは以上の事等を念頭に置き、年初に戦略計画を立案し、奉仕活動を行い、数々の地域社会奉仕の成果を上げておりますが（震災復興支援を含む）今後の奉仕活動について、卓越した知識と経験を持つ大日方会員の卓話「ロータリーの奉仕活動」を拝聴し奉仕の理想に邁進したく考えます。

(副会長 橋本年男記)

<卓話の内容>

私は入会して27年に成ります。本日はどうしてこのスピーチを皆様にお話しするかは、次年度に私が2750地区の奉仕プログラム委員長を務める事になっているからです。

2750地区には95クラブありますが、6月に新しいクラブが三つ出来、98クラブと成り、日本で一番大きな規模の地区と成ります。この地区の奉仕プログラムのお世話を私がする事になります。

奉仕プログラム委員会には4つの小委員会があります。1つは地域社会奉仕委員会ですが、この委員長は当クラブの橋本会員が担当する事に成っています。次に職業奉仕委員会・国際奉仕委員会、そして韓国との親善を目的とする国際親善委員会であります。他のクラブ（築地RC等）からも卓話の要請が来ており、所属する当クラブでも立場上お話しする事となりました。スピーチ用の資料として本日は皆様に手続要覧の抜粋を用意いたしました。又、本日の週報には規定審議会とクラブ定款について掲載されていますので、大変タイムリーであります。

手続要覧は3年に一度、発行されます。2013年度版が最新と成ります。国際ロータリーの規定審議会は3年に1回開催されます。3月に審議会が行われ決議事項が7月から実施される事と成り、手続要覧が発行されます。今回は2016年版という事と成ります。

手続要覧にはすべての事が記載されていますので非常に大事な冊子といえます。そこで、手続要覧をもとに奉仕活動の重要性を皆様にお話ししたいと考えました。手続要覧は2010年版と今回の2013年版では大幅に変わりました。まず、厚さが薄くなり、中身も読みやすくなりました。入会時に皆さんはロータリーの綱領について教えられたと思いますが、綱領という団体の立場等を示す難しい言葉が、今回はロータリーの目的にかわりました。もう一つ大きく変わったのは奉仕活動についての取り扱いです。2010年版は社会奉仕や職業奉仕がそれぞれ独立した奉仕活動のように書かれていましたが、今回はロータリーの使命の遂行と書かれていて、基本理念の次に奉仕部門として5大奉仕がまとめて書かれています。そこでは「クラブ奉仕・職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕の5大奉仕は全ロータリークラブの活動の指針となる。」と書かれています。この5大奉仕は別々のものではないという事です。さらに驚くべき事はクラブ奉仕も一体であるという事です。

クラブの委員会は、クラブ管理運営委員会・会員増強委員会・広報委員会・ロータリー財団委員会・そして奉仕プロジェクト委員会構成することになっています。奉仕活動はまとめて奉仕プロジェクト委員会が担当します。クラブもEクラブ、衛星クラブ等が出来て変化しています。ロータリーのメンバーも大きく変わりました。今迄のメンバーは職業人が会員でしたが、今はボランティア団体の人もメンバーに成っても良い事と成ったり、更に、家庭の主婦もロータリアンとして認められています。ここで皆様に理解してもらいたい事があります。SAAです。SAAはサージャント・アット・アームズの事で、サージャントとは軍隊で下の方の位の軍曹の意味であり、SAAは社交クラブ等での守衛の事を言います。現在はSAAという言葉ではなく、会場監督といえます。会場監督なので委員会等はいりません。しいて言うならば会場監督とその補佐の2名位で良いという事です。当クラブの半分くらいはSAAに所属していますが見直す必要があると思います。もう一つ親睦委員会は、クラブ管理運営を支えている委員会ですが、手続要覧には親睦委員会の記載はありません。当クラブの半分位が親睦委員会に入っていますが、私の言いたい事はロータリーが非常に大きく変わっているという事です。幹部の方々は是非手続要覧を読み解き確認をしていただいて、大きく変化しているロータリークラブを運営してほしいと思います。手続要覧第一章に効果的ロータリークラブの記述があります。これはロータリーでは大変重要な事です。まず会員基盤を維持、拡大する事、次に地元地域ならびにほかの国々の地域社会において奉仕プロジェクトを実施し、成果をもたらすことです。さらにロータリー財団支援とリーダーの育成の4つであります。従来、我々が持つイメージは親睦と奉仕が車の両輪と言われてきましたが、これが大きく変化したという事です。この4つの要素をキチンと実施するクラブが効果的なロータリークラブに成るという事です。

次に国際ロータリーがかかげる戦略計画の最優先事項が三つあります。クラブサポート・人道的奉仕・公共イメージの向上であります。

第6章では基本理念として4つのテストをかかげていますが、4つのテストに説明はありません。そのあとに

記載されているロータリーの目的が、ロータリーの綱領に当たるものです。この目的の第一が知り合いを広める事によって奉仕の機会とする事、第二が職業上の高い倫理基準を保ち各自の職業を高潔なものとする事、第三がロータリアン一人一人が個人として、また事業および社会生活において、日々奉仕の理念を実践する事、第四は奉仕の理念で結ばれた職業人が世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進する事です。そこにも親睦という言葉は出てこないのですが、ロータリーの基本的特徴であるという中核的な価値観の中に唯一親睦ということばが出てきます。

第7章で使命としてロータリーの奉仕部門が出て来ます。クラブ運営を進めるうえで五つの委員会を構成するとしています。先程、クラブの委員会構成でふれました通りです。そこで奉仕という事についてどう考えたら良いかを述べます。奉仕のイメージはロータリーが100周年を迎えたころから大きく変わってきました。奉仕は金銭的支援を行う事が主体と成っていましたが、そのような奉仕は宣伝するものではありません。さらに金善的な奉仕を続けると受ける方は継続を期待しますので、続ける事に成ります。以前数年寄付を続けていた事業を辞めたらインパクトがあり大変でした。そこで大事に成って来たのが社会との接点です。社会と一緒に考えて奉仕活動を行おうと言う事に成りました。ロータリアンのみでなく地元の方々や他の団体と共同でお金も伴うだろうがお金だけでなく知恵を出しロータリアンの専門性等を活かして奉仕活動を行う事に成ることが望ましいのです。

以前は奉仕活動を世の中に知ってもらおうとしても知らせる手段はなかったので、ロータリアン相互での交流が中心でした。ロータリーの友や毎週クラブが発行する週報及びホームページなどです。最近はSNS等自由に社会に発信することが出来ます。社会と一体になるという意味で広報が重要になってきました。奉仕活動の内容も変化してきた事と同時に広報手段が多く成りました。これまで奉仕活動の中であまり話題には成ってませんがクラブ奉仕をどうするかがあります。クラブ奉仕のイメージはクラブの中で困っている人がいたらどうしたら良いか、例えば例会に出てこない会員がいたら声を掛ける事が大切です。クラブの全会員の現状を考える事がクラブ奉仕だと思います。人の心を伝え、共有する事が外に対する奉仕、内に対する奉仕どちらも変わりはありません。

最後に従来は親睦と奉仕が車の両輪と言われてきましたが、それを一つだけにしたらどう成りますか。親睦を優先すると楽しい例会に成るかもしれませんが、しかし、奉仕を脇において親睦だけに力を注ぐクラブであるならばクラブは多分消えていくでしょう。半年位はおもしろいかも知れませんが、一年二年経過すると空しく成り、辞めたく成るのではないかという感じがします。奉仕はどうでしょうか。奉仕活動だけだとしたら緊張感があります。緊張感と充実感でクラブは成長していきます。どっちが大事かと言う事は明確だと思います。ロータリーが充実して元気になることの一番大事な事は奉仕活動であります。

内容は心と心、心のふれあう奉仕活動を実行する事と考えます。人間の温かさを伝えて行く事が大切であります。そして皆で共有して行くという活動が大事だろうと思います。私の感じている奉仕活動についてお話ししました。

(記録 橋本年男)